



資料

デザイン関連統計

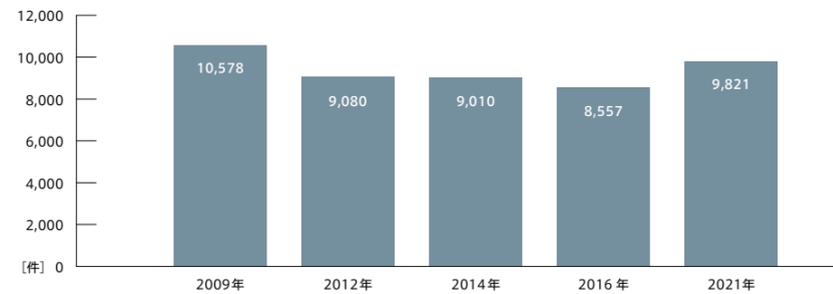
I. デザイン業の動向

1. デザイン事業所数

デザイン事業所数は減少傾向が続いていたが、2016年～2021年にかけては増加に転じている(2016年8,557社から2021年9,821社へ1,264社増加)。デザイン事業所の従業者数も同じく推移している(2016年41,425名から2021年42,376名へ951名増加)。

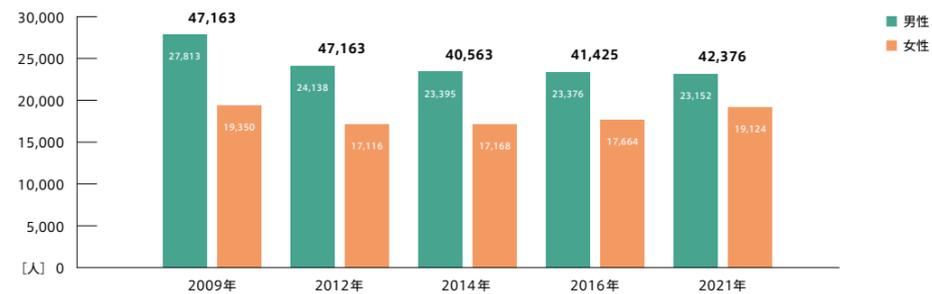
※ 経済センサスおよび特定サービス産業実態調査のデザイン業は日本標準産業分類による。日本標準産業分類におけるデザイン業とは、工業デザイン、クラフトデザイン、インテリアデザイン、商業デザインなど工業的・商業的デザインに関する専門的なサービスを提供する事業所をいう。衣服やスカーフなどの服飾デザイン、服地や着物地などのテキスタイルデザイン及びパッケージデザインを行う事業所も本分類に含まれる。

(1) デザイン事業所数の推移



出所: 経済センサス(2021、2016、2014、2012、2009年)

(2) デザイン事業所の従業者数の推移

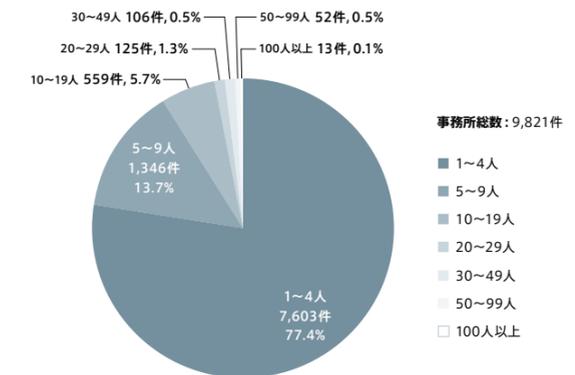


出所: 経済センサス(2021、2016、2014、2012、2009年)
 ※ デザイン業の事業所の従業者数であり、職業がデザイナーとは限らない。

2. デザイン事業所の構成 (従業者規模別事業所数・売上高規模別事業所数)

事業所数を従業者規模別で見ると、「4人以下」が77.4%を占めており、「5～9人」の13.7%とあわせると9割超の事業所が10人未満となっている。売上高規模別では「1千万円未満」が最も多い36.7%、「1千万円以上3千万円未満」が28.6%、「3千万円以上1億円未満」が24.7%と、売上高1億円未満の事業所が9割を占めている。

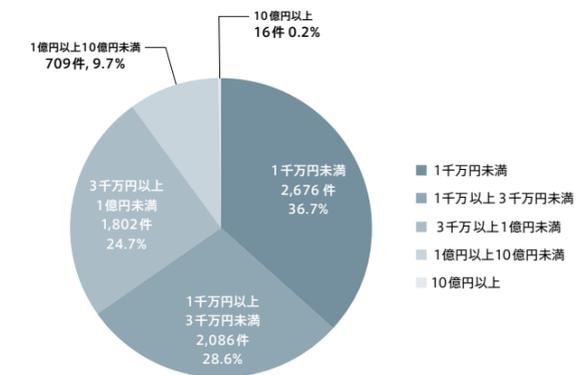
(3) 従業者規模別事業所数



従業者規模	事業所数 [件]	割合	従業者数 [人]	割合	従業者数うち 常用雇用者 [人]	割合
総数	9,821	—	42,376	—	29,264	—
1～4人	7,603	77.4%	14,227	33.6%	5,303	18.1%
5～9人	1,346	13.7%	8,564	20.2%	6,185	21.1%
10～19人	559	5.7%	7,369	17.4%	6,259	21.4%
20～29人	125	1.3%	2,908	6.9%	2,631	9.0%
30～49人	106	1.1%	3,964	9.4%	3,721	12.7%
50～99人	52	0.5%	3,402	8.0%	3,300	11.3%
100人以上	13	0.1%	1,942	4.6%	1,865	6.4%

出所: 経済センサス(2021年)

(4) 売上高規模別事業所数



出所: 特定サービス産業実態調査(2018年、確報)
 ※ 特定サービス産業実態調査は終了しているため、最新値は2018年のものとなっている。

3. デザイン事業所の都道府県分布

地域別分布を見ると東京都には3,635事業所と全体の3割以上、大阪府には1,139事業所と、東京・大阪を合わせて半数近くが集中する。

上位5県は東京、大阪について愛知県558事業所、神奈川県530事業所、福岡県355事業所となっており、デザイン事業所は人口規模の大きな大都市圏に集中している様子が窺える。一方の下位5県は鳥取県23事業所、長崎県25事業所、島根県26事業所、高知県31事業所、佐賀県33事業所と、1県あたり20~30事業所という規模である。

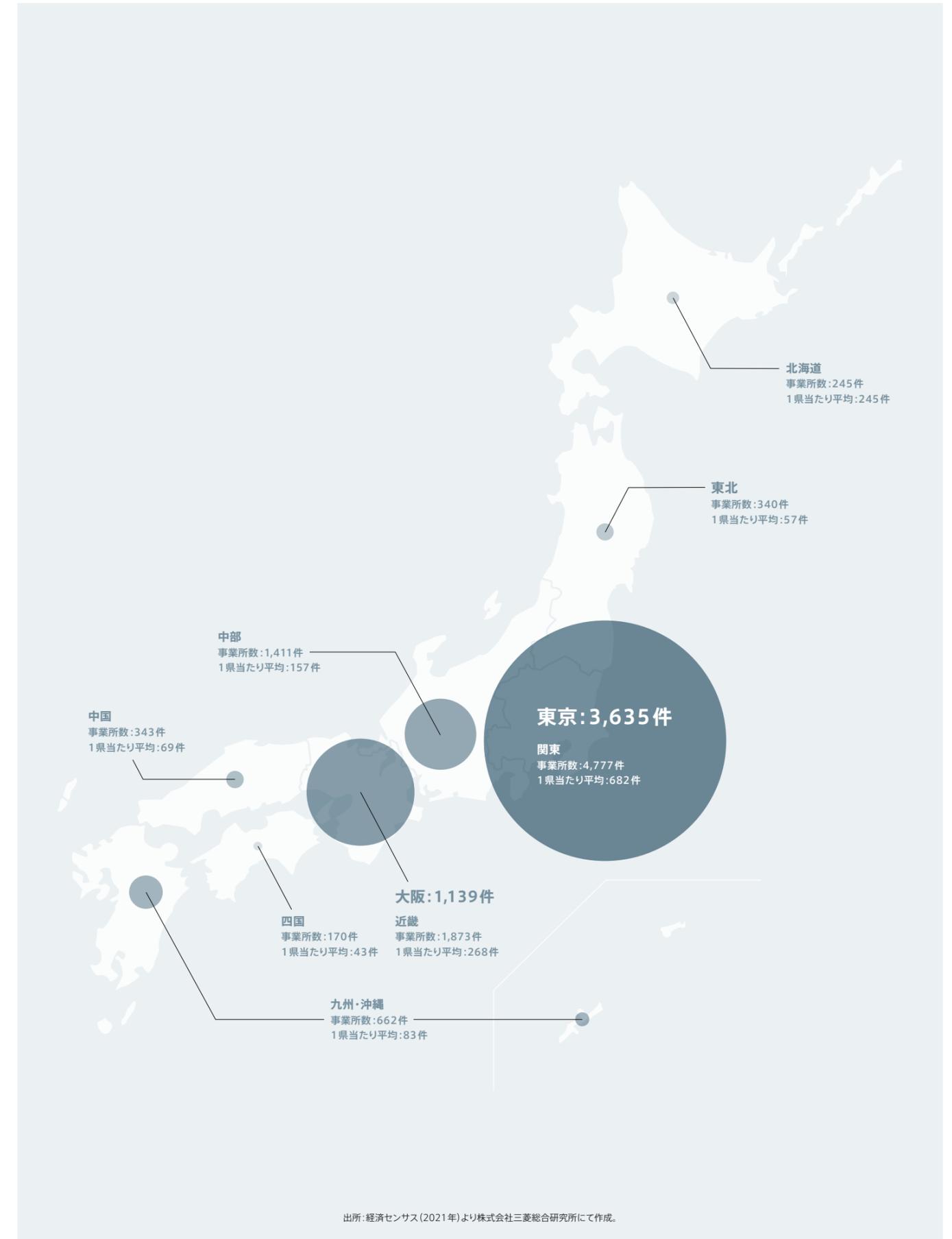
地域ブロック別で見ると、北海道245事業所、東北では340事業所(1県あたりの平均は57事業所)、東京・神奈川のある関東は規模が大きく4,777事業所(682/県)、中部地方は愛知県の他、新潟、長野、石川、静岡、岐阜など100か所以上の事業所を持つ県が多く1,411(157/県)、大阪の他、事業所数が200以上の京都、兵庫のある近畿地方は1,873(268/県)、中国地方は343事業所(69/県)と規模としては東北ブロックと近く、四国地方は170事業所(43/県)と1県辺りの平均値で見ると最も小さな規模となっている。九州・沖縄地方は662事業所(83/県)と、福岡が平均値を押し上げてはいるものの、福岡県以外は25~65/県という規模であり、東北、中国と同じような規模である。

(5) 都道府県別事業所数

地域	事業所数[件]	従業者数[人]	
全国	9,821	42,376	
北海道	245	1,056	
東北	青森県	38	95
	岩手県	40	105
	宮城県	108	454
	秋田県	46	172
	山形県	44	129
	福島県	64	290
	関東	茨城県	70
栃木県		52	141
群馬県		73	291
埼玉県		230	605
千葉県		187	537
東京都		3,635	19,413
神奈川県		530	1,633
中部		新潟県	105
	富山県	76	395
	石川県	111	376
	福井県	58	181
	山梨県	40	95
	長野県	137	406
	岐阜県	128	326
	静岡県	198	574
	愛知県	558	2,403

近畿	三重県	53	137
	滋賀県	45	112
	京都府	259	1,289
	大阪府	1,139	4,988
	兵庫県	284	875
	奈良県	46	86
中国	和歌山県	47	113
	鳥取県	23	77
	島根県	26	63
	岡山県	124	514
	広島県	126	526
	山口県	44	104
四国	徳島県	35	80
	香川県	50	115
	愛媛県	54	178
	高知県	31	75
九州・沖縄	福岡県	355	1,515
	佐賀県	33	75
	長崎県	25	57
	熊本県	63	220
	大分県	39	109
	宮崎県	35	95
	鹿児島県	47	212
	沖縄県	65	438

出所:経済センサス(2021年)



4. デザイン業の経済規模

デザイン業の経済規模を事業所の売上高から見ると、売上高は増加傾向にある。売上高の増減は事業所数の増減とほぼ一致しており、これは1事業所当たり、従業員ひとり当たりの売上高に関しても同様である。直近の2021年の売上高は全事業所で488,635万円、1事業所当たり5,618万円、従業員ひとり当たりは1,337万円となっている。

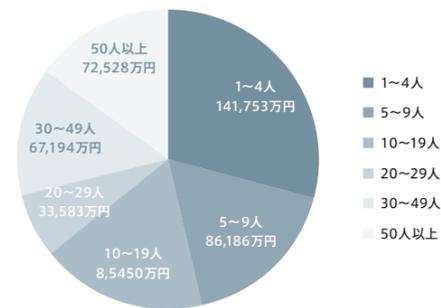
一方、従業員規模別の売上高を見ると、売上高の多寡は事業所数と概ね一致しているものの、30～49人以上が事業所数95で売上高が67,194万円であるのに対し、50人以上は事業所数が57、売上高72,528万円と、事業所数のより少ない50人以上の事業所の売上高は30～49人の事業所よりも大きくなっている。

1事業所当たりの売上高は50人以上が最も多い136,846万円、最小が1～4人の2,083万円と、従業員数と売上高は相関関係をもつが、従業員ひとり当たり売上高では、基本的には従業員の多い事業所の方がひとり当たり売上も高い傾向にはあるものの、10～19人は1,402万円、20～29人は1,318万円、30～49人は2,100万円、50人以上は1,646万円と、特定の規模の事業所の方がより規模の大きな事業所よりもひとり当たり売上高が高くなる場合も見られる。

(6) デザイン事業所の売上高推移

	事業所数[件]	従業員数[人]	売上(収入)金額[万円]	1事業所当たり 売上(収入)金額[万円]	従業員ひとり当たり 売上(収入)金額[万円]
2012年	7,067	32,411	392,761	5,587	1,221
2014年	6,811	29,816	353,221	5,347	1,217
2016年	7,224	34,358	476,893	6,803	1,459
2021年	8,996	38,260	488,635	5,618	1,337

2021年従業員規模別売上高



従業員規模	事業所数[件]	売上(収入)金額[万円]	1事業所当たり 売上(収入)金額[万円]	従業員ひとり当たり 売上(収入)金額[万円]
1～4人	7,001	141,753	2,083	1,113
5～9人	1,220	86,186	7,385	1,161
10～19人	494	85,450	18,416	1,402
20～29人	114	33,583	30,530	1,318
30～49人	95	67,194	78,132	2,100
50人以上	57	72,528	136,846	1,646

出所: 経済センサス活動調査(2021年、2016年、2012年)、経済センサス基礎調査(2014年)
 ※ 事業所の売上高は通常活動調査の範囲となるが、2014年度は基礎調査に記載されている。
 ※ なお、事業所数は(1)の事業所数の表と、(6)の表では異なっている。これは事業所数が経済センサス基礎調査、売上高は経済センサス活動調査を出所とするためである。

(7) デザイン業におけるデザインの種類別売上高

事業従事者5人以上の事業所において、業務種類別に売上高を見ると、グラフィックデザインが5割に対し、他の業種はどれも10%以下と、グラフィックデザインが中核業務となっている。なお、事業所数でもグラフィックデザインは45%を占めている。

※ 経済センサスおよび特定サービス産業実態調査のデザイン業は日本標準産業分類による。日本標準産業分類におけるデザイン業とは、工業デザイン、クラフトデザイン、インテリアデザイン、商業デザインなど工業的・商業的デザインに関する専門的なサービスを提供する事業所をいう。衣服やスカーフなどの服飾デザイン、服地や着物地などのテキスタイルデザイン及びパッケージデザインを行う事業所も本分類に含まれる。

種別	2018年		2017年		2015年		2014年	
	売上(収入)金額 [万円]	比率	売上(収入)金額 [万円]	比率	売上(収入)金額 [万円]	比率	売上(収入)金額 [万円]	比率
インダストリアル	14,791	7%	13,867	6%	12,082	6%	11,806	6%
グラフィック	119,348	55%	128,639	57%	129,255	61%	122,839	57%
インテリア	12,566	6%	8,943	4%	10,408	5%	11,289	5%
パッケージ	14,392	7%	13,029	6%	13,779	6%	13,514	6%
ディスプレイ	7,776	4%	8,965	4%	8,822	4%	9,291	4%
テキスタイル・ファッション	7,275	3%	8,176	4%	8,028	4%	8,835	4%
マルチメディア	19,385	9%	19,709	9%	13,422	6%	15,245	7%
その他	20,438	9%	25,567	11%	17,802	8%	20,841	10%
全体	215,971	100%	226,895	100%	213,598	100%	213,659	100%

出所: 特定サービス産業実態調査(2018、2017、2015、2014年)
 ※ 2016年は特定サービス産業実態調査を実施せず。また2018年をもって特定サービス産業実態調査は終了しているため、2018年度のもの最新となる。

参考: 業務種類別事業所数(2018年)

業務種類	事業所数[件]	比率
インダストリアル	126	4%
グラフィック	1,357	45%
インテリア	149	5%
パッケージ	323	11%
ディスプレイ	201	7%
テキスタイル・ファッション	88	3%
マルチメディア	424	14%
その他	318	11%

出所: 特定サービス産業実態調査(2018年)

(8) 都道府県別デザイン業の売上高

東京都(50.51%)と大阪府(15.06%)合わせて6割超である一方、他都道府県の多くが1%未満と、大都市集中型の産業構造となっている。愛知県(6.2%)、福岡県(3.79%)がこれらに次ぐが、東京都比べるとその差は8倍以上となっている。

※ 経済センサスおよび特定サービス産業実態調査のデザイン業は日本標準産業分類による。日本標準産業分類におけるデザイン業とは、工業デザイン、クラフトデザイン、インテリアデザイン、商業デザインなど工業的・商業的デザインに関する専門的なサービスを提供する事業所をいう。衣服やスカーフなどの服飾デザイン、服地や着物地などのテキスタイルデザイン及びパッケージデザインを行う事業所も本分類に含まれる。

地域	売上(収入)金額 [万円]	比率		
全国	310,366	—		
北海道	6,387	2.06%		
東北	青森	416	0.13%	
	岩手	149	0.05%	
	宮城	2,439	0.79%	
	秋田	816	0.26%	
	山形	398	0.13%	
	福島	983	0.32%	
関東	茨城	1,109	0.36%	
	栃木	887	0.29%	
	群馬	3,486	1.12%	
	埼玉	5,226	1.68%	
	千葉	2,479	0.80%	
	東京	156,780	50.51%	
	神奈川	8,934	2.88%	
中部	新潟	1,818	0.59%	
	富山	1,304	0.42%	
	石川	1,176	0.38%	
	福井	605	0.19%	
	山梨	321	0.10%	
	長野	2,698	0.87%	
	岐阜	1,771	0.57%	
	静岡	5,886	1.90%	
	愛知	19,245	6.20%	
	近畿	三重	1,181	0.38%
滋賀		225	0.07%	
京都		5,744	1.85%	
大阪		46,738	15.06%	
兵庫		4,842	1.56%	
奈良		382	0.12%	
和歌山		785	0.25%	
中国		鳥取	518	0.17%
		島根	155	0.05%
		岡山	2,493	0.80%
四国		広島	1,965	0.63%
		山口	798	0.26%
		徳島	605	0.19%
		香川	887	0.29%
		愛媛	767	0.25%
九州・沖縄		高知	811	0.26%
		福岡	11,749	3.79%
		佐賀	332	0.11%
		長崎	272	0.09%
	熊本	740	0.24%	
大分	705	0.23%		
宮崎	713	0.23%		
鹿児島	362	0.12%		
沖縄	1,286	0.41%		

出所:特定サービス産業実態調査(2018年)

II. デザイナーの状況

5. デザイナー数

直近の国勢調査によれば、職業をデザイナーとするものは201,100人である。デザイナー数は2005年から増加傾向が続いており、2005年から2020年までの間に36,000人あまり増加している。

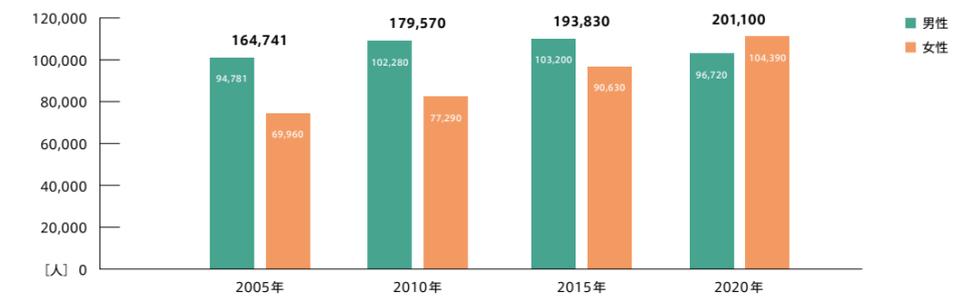
男女別では、男性が増加傾向にあったのが2015年から2020年にかけて6,480人減少に転じたのに対し、女性は一貫して増加している。2020年には男女のデザイナー数は逆転し、女性の方が多くなっている。

年齢構成で見ると、40～44歳代が最も多く31,140人、次いで35～39歳(29,790人)、30～34歳(26,540人)、45～49歳(26,020人)となっている。また65歳以上も9,760人存在している。

男女別では、男性が40～44歳代が最多の16,660人、次いで45～49歳、35～39歳、50～54歳と比較的高めの年齢層の人数が多い一方、女性では30～34歳が最多の17,100人、次いで25～29歳、35～40歳、45～49歳と、男性と比べると低い年齢層にピークがあり、50代以降急激に減少する。

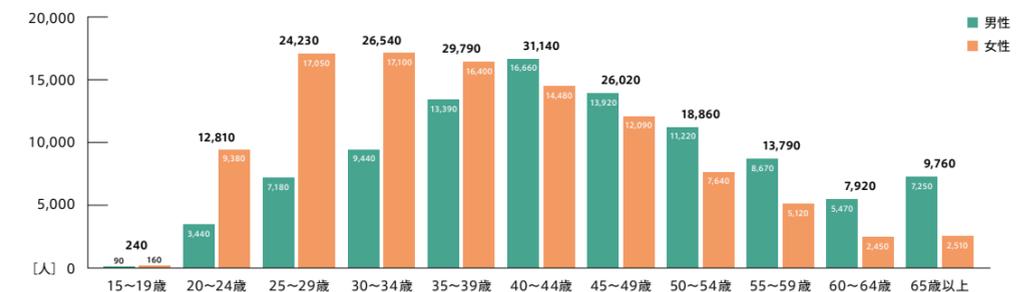
※ ここでのデザイナーとは国勢調査における職業分類「デザイナー」を指す。国勢調査の職業分類におけるデザイナーの定義は、「工業的若しくは商業的製品又はその他の物品・装飾に関し、用途・材質・製作法・形状・模様・色彩・配置・照明などについて、技芸的又は趣味的な意匠を考案し、図上に設計・表現を行う専門的な仕事に従事するもの」を言い、次の者を含む:デザイナー、服飾デザイナー、商業デザイナー、インテリアデザイナー、フラワーデザイナー、グラフィックデザイナー、図案家、建築装飾図案家、陶磁器デザイナー、友禅図案家、ウェブデザイナー、工芸図案家、工業デザイナー、産業デザイナー、宣伝用図案家、機械デザイナー、自動車デザイナー。

(9) デザイナー数の推移



出所:国勢調査(2020、2015、2010、2005年)

(10) デザイナーの男女別年齢構成



出所:国勢調査(2020年)

6. デザイナーが就業する産業

デザイナーの就業する業種はデザイン業(33.39%)が最も多く、次いで広告業(9.34%)、インターネット付随サービス業(9.11%)、情報サービス業(8.22%)、映像・音声・文字情報制作業(7.56%)となっている。そのほか、情報通信業、製造業、卸売業・小売業等といった産業でもデザイナーが活躍している。

(11) デザイナーの就業する産業

	業種	デザイナー数[人]	比率	
A	農業, 林業	50	0.02%	
B	漁業	0	0.00%	
C	鉱業, 採石業, 砂利採取業	0	0.00%	
D	建設業	5,090	2.53%	
E	製造業	24,340	12.10%	
	9	食料品製造業	700	0.35%
	10	飲料・たばこ・飼料製造業	80	0.04%
	11	繊維工業	2,750	1.37%
	12	木材・木製品製造業(家具を除く)	40	0.02%
	13	家具・装備品製造業	380	0.19%
	14	パルプ・紙・紙加工品製造業	760	0.38%
	15	印刷・同関連業	9,330	4.64%
	16	化学工業	940	0.47%
	18	プラスチック製品製造業(別掲を除く)	480	0.24%
	19	ゴム製品製造業	150	0.07%
	20	なめし革・同製品・毛皮製造業	500	0.25%
	21	窯業・土石製品製造業	350	0.17%
	22	鉄鋼業	20	0.01%
	23	非鉄金属製造業	40	0.02%
	24	金属製品製造業	460	0.23%
	25	はん用機械器具製造業	110	0.05%
	26	生産用機械器具製造業	170	0.08%
	27	業務用機械器具製造業	710	0.35%
	28	電子部品・デバイス・電子回路製造業	140	0.07%
29	電気機械器具製造業	740	0.37%	
30	情報通信機械器具製造業	290	0.14%	
31	輸送用機械器具製造業	1,570	0.78%	
32	その他の製造業	3,630	1.81%	
F	電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.00%	

G	情報通信業		50,760	25.24%	
	37	通信業	360	0.18%	
	38	放送業	340	0.17%	
	39	情報サービス業	16,530	8.22%	
	40	インターネット付随サービス業	18,320	9.11%	
	41	映像・音声・文字情報制作業	15,210	7.56%	
		41a	映像・音声情報制作業	5,530	2.75%
		413	新聞業	400	0.20%
		414	出版業	1,700	0.85%
		415	広告制作業	6,820	3.39%
	416	映像・音声・文字情報制作に付帯するサービス業	760	0.38%	
H	運輸業, 郵便業		80	0.04%	
I	卸売業, 小売業		17,800	8.85%	
	50	卸売業	9,130	4.54%	
	56	各種商品小売業	220	0.11%	
	57	織物・衣服・身の回り品小売業	3,120	1.55%	
	58	飲食品小売業	780	0.39%	
	59	機械器具小売業	470	0.23%	
	60	その他の小売業	4,080	2.03%	
J	金融業, 保険業		210	0.10%	
K	不動産業, 物品賃貸業		1,280	0.64%	
L	学術研究, 専門・技術サービス業		93,100	46.30%	
	71	学術・開発研究機関	750	0.37%	
	72	専門サービス業(他に分類されないもの)	71,040	35.33%	
		726	デザイン業	67,140	33.39%
	73	広告業	18,790	9.34%	
	74	技術サービス業(他に分類されないもの)	2,530	1.26%	
M	宿泊業, 飲食サービス業		1,050	0.52%	
N	生活関連サービス業, 娯楽業		2,070	1.03%	
O	教育, 学習支援業		660	0.33%	
P	医療, 福祉		250	0.12%	
R	サービス業(他に分類されないもの)		3,990	1.98%	
S	公務(他に分類されるものを除く)		10	0.00%	
T	分類不能の産業		350	0.17%	

出所: 国勢調査(2020年)

7. デザイナーの就業形態

デザイナーのうち、雇用されている者(役員を含む)は146,960人、そのうち正規職員は108,580人と全体の74%と大多数を占めている。派遣社員やパートアルバイトといった非正規雇用者は合わせて全体の14%である。

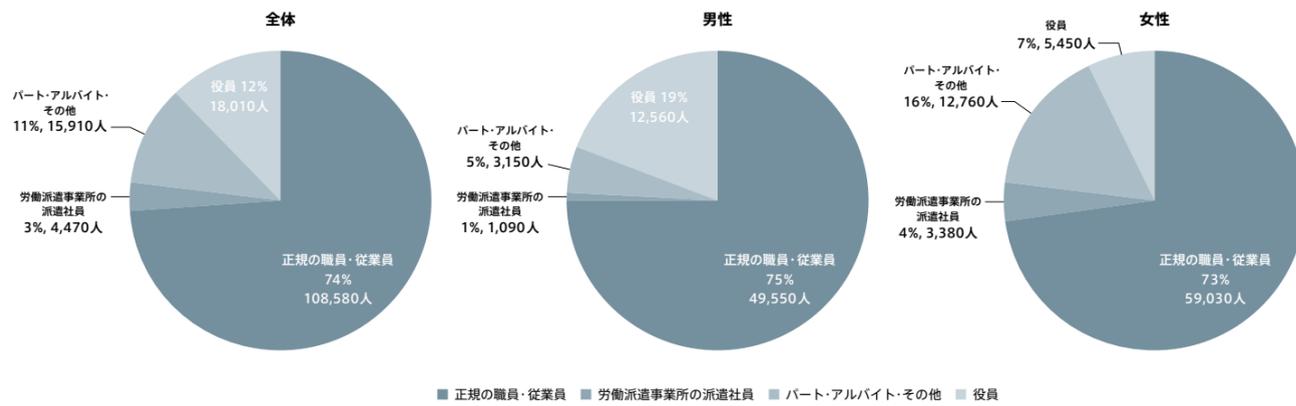
男女別に見ると、正規雇用者の割合は男性75%、女性73%と顕著な差はないものの、男性では役員の割合が19%と2割近いのに対し、女性役員は7%、非正規雇用者は男性が6%であるのに対し、女性では20%となっている。

一方、企業に属するインハウスデザイナー、企業に属さず個人で活動するフリーランスデザイナーの比率で見ると、インハウスデザイナーは75%、フリーランスデザイナーが24%となっている。

男女別では、男性デザイナーのフリーランスの割合が28%、女性が20%と、男性の方がフリーランスとして働く者が多い。

※ インハウスデザイナーとは、企業に属するデザイナーを指し、国際調査において従業上の地位が「雇用者」「役員」「雇人のある業主」である者をインハウスデザイナーとした。フリーランスデザイナーは特定の企業や団体に専従せず、個人事業主もしくは個人企業法人として活動するものを指し、従業上の地位が「雇人のない業主」であるデザイナーをフリーランスデザイナーとした。

(12) 正規・非正規、インハウス・フリーランスデザイナーの割合

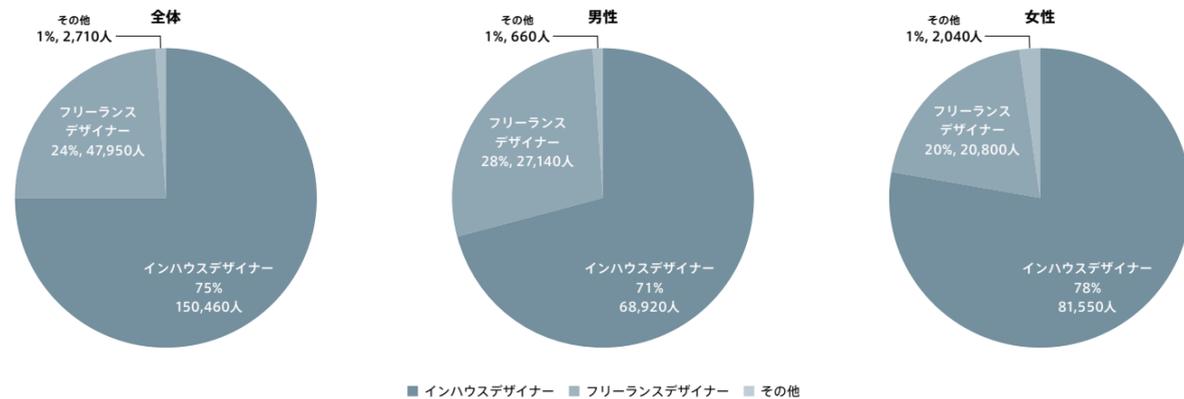


デザイナーの正規・非正規割合

	雇用者(役員を含む)[人]	正規の職員・従業員[人]	労働者派遣事業所の派遣社員[人]	パート・アルバイト・その他[人]	役員[人]
全体	146,960	108,580	4,470	15,910	18,010
男	66,350	49,550	1,090	3,150	12,560
女	80,610	59,030	3,380	12,760	5,450

出所:国勢調査(2020年)

インハウス・フリーランスデザイナーの割合



出所:国勢調査(2020年)

※「その他」には、家族従業者、家庭内職者、従業上の地位「不詳」が含まれる。

8. デザイナーの地域分布

都道府県別のデザイナー数を見ると、埼玉県13,060人、千葉県9,330人、東京都60,000人、神奈川県2,1020人と、関東地方に集中している。そのほか愛知県9,910人、大阪府16,540人がデザイナーの多い地域となっている。

※ 国勢調査における職業分類におけるデザイナーを指す。なお、既出の1-1-(2)デザイン事業所数の従業者数の推移におけるデザイン事業所の従業者は、職業をデザイナーとしない者も含まれている。また、職業をデザイナーとする者の就業先はデザイン事業所以外の事業所や、個人事業主、フリーランス等も含んでおり、1-1-(2)デザイン事業所数の従業者数とデザイナー数とは重複するものではない。

(13) 都道府県別デザイナー数

地域	デザイナー数[人]
全国	201,100
北海道	5,240
東北	
青森県	570
岩手県	690
宮城県	2,430
秋田県	510
山形県	830
福島県	1,130
中国	
茨城県	2,010
栃木県	1,550
群馬県	1,630
関東	
埼玉県	13,060
千葉県	9,330
東京都	60,000
神奈川県	21,020
中部	
新潟県	2,500
富山県	1,260
石川県	1,480
福井県	990
山梨県	760
長野県	1,880
岐阜県	2,420
静岡県	3,550
愛知県	9,910
近畿	
三重県	1,160
滋賀県	1,160
京都府	5,140
大阪府	16,540
兵庫県	6,580
奈良県	1,730
和歌山県	650
中国	
鳥取県	580
島根県	330
岡山県	1,750
広島県	2,800
山口県	1,060
四国	
徳島県	430
香川県	1,070
愛媛県	980
高知県	520
九州・沖縄	
福岡県	6,980
佐賀県	580
長崎県	630
熊本県	1,300
大分県	810
宮崎県	740
鹿児島県	1,100
沖縄県	1,720

出所:国勢調査(2020年)

9. デザイナーの労働

2022年のデザイナーの月間の総労働時間数は177時間(所定内実労働時間170時間+超過実労働時間数7時間)となり、直近5年の総労働時間数はおよそ180時間前後で推移している。

男女別の月間労働時間では、男性が179時間、女性が175時間となっている。企業規模別では、10~99人の企業が179時間、100~999人が175時間、1,000人以上が183時間と、1,000人以上の企業で働くデザイナーの労働時間が最も長い。

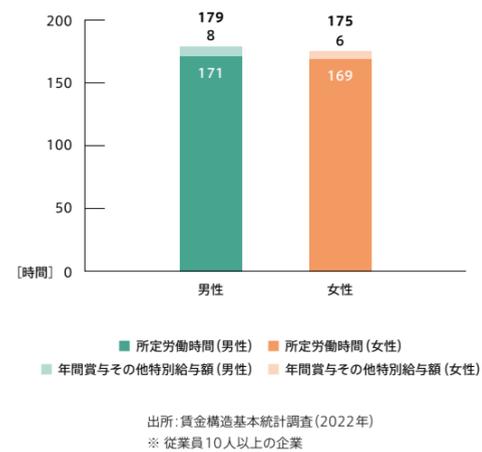
※ このセクションにおけるデザイナーとは、賃金構造基本統計調査の職種「デザイナー」を指す。賃金構造基本統計調査のデザイナーとは、工業的製品、商業的製品、その他の物品又は環境などに関し、用途、材質、製作法、機能、美的要素などを考慮し、形状、模様、色彩、位置、照明などについて意匠を創作し、図上への設計、表現を行う専門的な仕事に従事する者をいい、デザイナー、服飾デザイナー、商業デザイナー、インテリアデザイナー、ディスプレイデザイナー、テキスタイルデザイナー、ファッションデザイナー、フラワーデザイナー、グラフィックデザイナー、広告デザイナー、インダストリアルデザイナー、図案家、建築装飾図案家、陶磁器デザイナー、友禅図案家、レイアウト(広告・宣伝業)が含まれる。

(14) デザイナーの労働時間

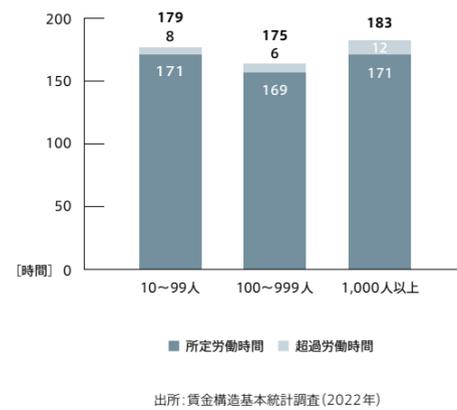
デザイナーの月間労働時間の推移



男女別月間労働時間



企業規模別月間労働時間



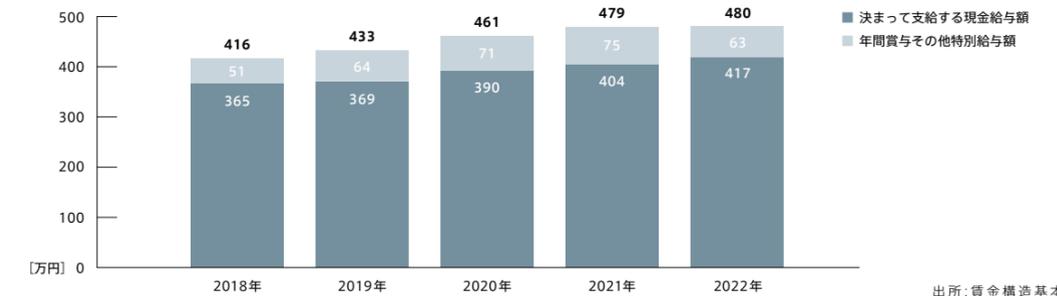
(15) デザイナーの年収

デザイナーの年収は、2022年度は480万円であり、直近5年の推移を見ると増加傾向が続いている。2018年の416万円から480万円と64万円の増加となっている。

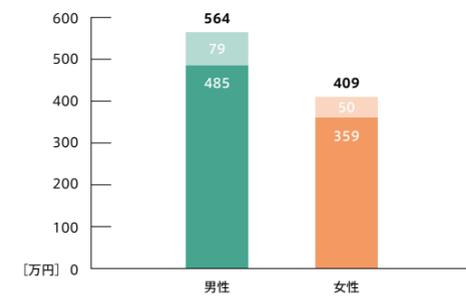
男女デザイナーの2022年度の年収は、男性が564万円であるのに対し、女性は409万円とその差は大きい。企業規模別の年収では、10~999人の規模では400万円台なのに対し、1,000人以上の規模では641万円と高額である。

男女別に加え、年齢階層別で見ると、最も高額なのは45~49歳男性で724万円、その他40代前半、50代の男性も600万円台となっている一方、女性では最高で35~39歳女性の476万円、次いで50代の450万円前後と、男性に比べて低い水準である。

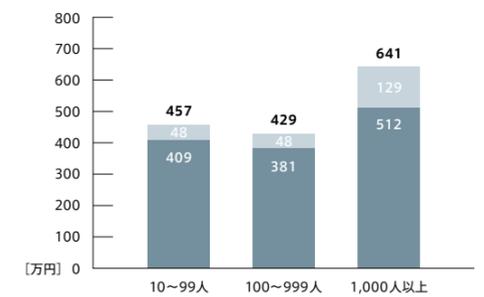
デザイナーの年収推移



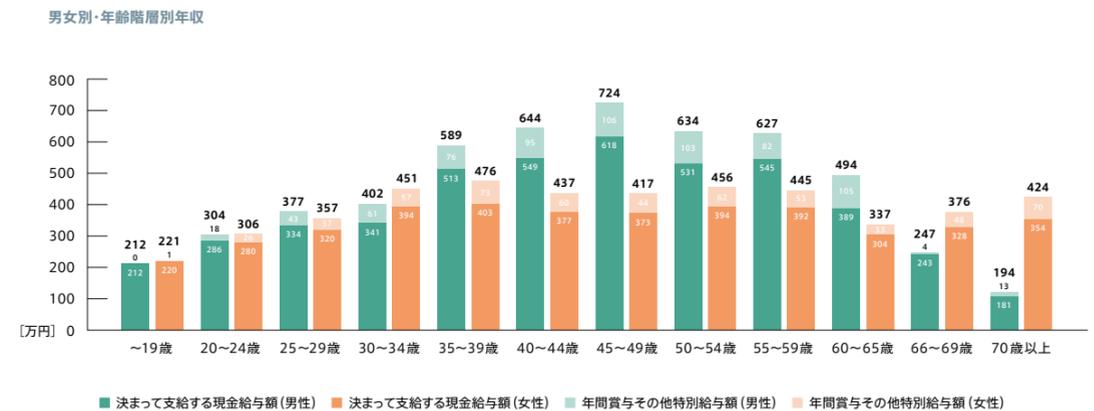
デザイナー性別年収



企業規模別年収



男女別・年齢階層別年収



デザイン関連施策

令和6年1月時点

施策	概要	省庁	掲載 URL	備考
伝統的工芸品産業支援補助金	<p>経済産業大臣が指定した工芸品の組合、団体及び事業者に対し、各産地における伝統的工芸品の原材料確保対策事業、若手後継者の創出育成事業のほか、和食をはじめとした日本文化など他分野や他産地との連携事業、国内外の大消費地等での展示会への出展など需要開拓事業などに対して支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●募集期間 令和6年1月5日～令和6年1月26日 ●補助上限額 20,000,000円 ●補助率 2/3、1/2(類型・企業規模、要件等によって異なります。) 	経済産業省 製造産業局 生活製品課 伝統的工芸品産業室	https://www.meti.go.jp/information/publicoffer/kobo/2024/k240105001.html	
デジタルスキル標準	<p>企業がDXを推進する専門性を持った人材を育成・採用するための指針である「DX推進スキル標準」に、ビジネスの視点、顧客・ユーザーの視点を総合的にとらえ、製品・サービスの方針や開発のプロセスを策定し、それらに沿った製品・サービスのありかたのデザインを担う人材としてデザイナーが追加されました。</p>	経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課	https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/skil_standard/main.html	独立行政法人情報処理推進機構(IPA) https://www.ipa.go.jp/jinzai/skill-standard/dss/index.html
ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金	<p>中小企業・小規模事業者等が今後複数年にわたり相次いで直面する制度変更(働き方改革や被用者保険の適用拡大、賃上げ、インボイス導入等)等に対応するため、中小企業・小規模事業者等が取り組む革新的な製品・サービスの開発、生産プロセス等の省力化を行い、生産性を向上させるための設備投資等を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●募集期間 令和5年12月27日～令和6年3月1日(17次締切分) ●補助上限額 8,000万円 ●補助率 2/3、1/2、1/3(類型・企業規模、要件等によって異なります。) 	中小企業庁 経営支援部 技術・経営革新課	https://portal.monodukuri-hojo.jp/about.html	
ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金(グローバル市場開拓枠)	<p>海外事業の拡大・強化などを目的とした「製品・サービス開発」または「生産プロセス・サービス提供方法の改善」に必要な設備・システム投資などを支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●募集期間 令和6年1月31日～令和6年3月27日 ●補助上限額 100万～3,000万円 ●補助率 2/3、1/2(類型・企業規模、要件等によって異なります。) 	中小企業庁 経営支援部 技術・経営革新課	https://portal.monodukuri-hojo.jp/index.html	令和4年度までの事業については、「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進事業」のうち、グローバル市場開拓枠②(海外市場開拓(JAPANブランド)類型)に統合。
成長型中小企業等研究開発支援事業(Go-Tech事業)	<p>中小企業者等が大学・公設試等と連携して行う、研究開発及びその事業化に向けた取組を最大3年間支援します。</p> <p>(令和6年度予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●募集期間 令和6年2月中旬～令和6年4月中旬 ●補助上限額 <ul style="list-style-type: none"> ↳通常枠:3年間合計で9,750万円以下 ↳出資獲得枠:3年間合計で3億円以下(ただし、補助上限額はファンド等が出資を予定している金額の2倍を上限とする。) ●補助率(事業主体、要件等によって異なります。) ↳中小企業者等(補助率:2/3以内) ↳大学・公設試等(補助率:定額) 	中小企業庁 経営支援部 技術・経営革新課	https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2024/240115kobo.html	
小規模事業者持続化補助金	<p>小規模事業者等が今後複数年にわたり相次いで直面する制度変更等に対応するために取り組む販路開拓等の取組の経費の一部を補助することにより、地域の雇用や産業を支える小規模事業者等の生産性向上と持続的発展を図ることを目的とします。本補助金事業は、持続的な経営に向けた経営計画に基づく、販路開拓等の取組や、その取組と併せて行う業務効率化(生産性向上)の取組を支援するため、それに要する経費の一部を補助します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●募集期間 ～令和6年3月14日 ●補助上限額 <ul style="list-style-type: none"> ↳通常枠:50万 ↳賃金引上げ枠・卒業枠・後継者支援枠・創業枠:200万円 ●補助率 2/3(類型・企業規模、要件等によって異なります。) 	中小企業庁 経営支援部 小規模企業振興課	https://s23.jizokukahojokin.info/	
知財総合支援窓口	<p>中小企業等が抱える様々な経営課題について、自社のアイデア、技術、ブランドなどの「知的財産」の側面から解決を図る支援窓口です。知財総合支援窓口は、各都道府県に設置しており、事業・知財戦略の策定助言や、知財の専門家である弁理士や弁護士をはじめ、デザイナーやブランドの専門家、地域ブランドや6次産業化を支援する地域ブランドデザイナー等の様々な専門家の派遣やアドバイスなど、地域に根付いた支援を行っています。</p>	特許庁 独立行政法人工業所有権情報・研修館(INPIT)	https://chizai-portal.inpit.go.jp/	

2023年度デザイン関連イベント

イベント・カンファレンス

大デザイン展
2023年9月9日～10日 <p>開催場所/実施主体:ピビピット オフィス (新宿) https://www.vivivit.com/events/dezanare/exhibition/2023</p>
「年にいちど、デザインナレッジの棚卸し」をテーマに、日本を代表するデザインチームとの交流を目的とする「スペース」と、実務から編み出された先端知識の獲得を目的とする「シンポジウム」を開催。スペースではチームラボやsansanなど25社、シンポジウムにはSUZUKIや富士通、モリサワなどを28社のデザイナーが出席。
北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2023
2023年9月15日～10月29日 <p>開催場所/実施主体:富山県富山市 富岩運河沿い https://goforkogei.com/</p>
富山、石川、福井の北陸3県を舞台に、工芸の魅力を今日の視点から発信するプラットホームとして2020年に始まった祭典。本年は、富山市の中心部から富山湾に続く富岩運河沿いの3エリアを会場に、工芸、現代アート、アール・ブリュットの分野を跨ぐアーティスト26名が参加する展覧会や、工芸をキーワードに北陸をつなぐ連携プログラムなどを開催。
高岡クラフト市場街
2023年9月23日～25日 <p>開催場所/実施主体:高岡市 https://chibamachi.jp/</p>
市場街(イチバマチ)は、「人と物とが行き交いそこから新たな価値観や関係性が生まれる場」という意味でつけられた名。工芸産地ならではのオープンファクトリーやワークショップ、高岡鑄物発祥の地を体感できるマルシェイベント、期間限定グルメなど、1日かけて楽しめる40以上のクラフトイベントを開催。
あさひかわデザインウィーク
2023年6月17日～25日 <p>開催場所/実施主体:旭川市/あさひかわデザインウィーク実行委員会 https://adwhokkaido.com</p>
2019年に「ユネスコデザイン創造都市」となった旭川市が2015年から開催する道北のデザインイベント。「ユネスコデザイン都市ブランドフォルタレザと旭川市の交流ポスター展」や「ADWものづくりツアー」などを開催。世界とつながることで国際的なデザインイベントとして発展させるため、海外から講演者やゲストを数多く招聘。
千年未来工藝祭
2023年8月26日～27日 <p>開催場所/実施主体:越前市 https://craft1000mirai.jp</p>
現代を生きる若者たちに、つくり手の技や製品、人柄に触れることで、工藝や手仕事を身近に感じてもらうとともに、次世代への継承のきっかけづくりを目指す2日間の工藝祭。人、技、地域、過去から現在、そして未来などさまざまな点をつなぎ、結び付けることを最大の目的とし、クラフト展示販売やワークショップを開催。
第1回日本国際芸術祭
2023年9月1日～10月15日 <p>開催場所/実施主体:醍醐寺ほか https://yumeshimakikou.org/wp-content/uploads/ja_jiaf_pamphlet_1013.pdf</p>
2025年の日本国際博覧会を契機に開催された芸術祭。アート、デザイン、サイエンス、テクノロジー、経済の共創の輪を大阪や全国につなげるため、京都府内の画廊や工房、企業ショールーム、大学研究室、美術館、工場（オープンファクトリー）、寺社仏閣など、京都を中心に展開。

アート&クラフトがテーマの新しい芸術祭 。「アート」の取り組みを継続しながら買い物楽しさや新たな体験を提供するため、新しい切り口で「クラフト」に着目し、多様なプログラムを展開。大竹伸朗や蛸川実花の作品のほか、建築家でアーティスト、デザイナーのエマニエル・ムホーのシンボル作品を道後商店街に展示。
--

Design Dimension Conference
2023年5月27日 <p>開催場所/実施主体:札幌市/一般社団法人 Design Dimension https://www.dxdimension.jp/2023-sapporo</p>
経営層やデザイナーが参加する共育・共創コンテンツを通じて、組織とデザイナーとの有機的・有効的な関係性の構築を支援し、「デザイン経営による組織の競争力強化」と「デザイナーのプレゼンス向上」によって、日本の活力となる人材・組織・地域を生み出すことを目的として開催。「産業や地域におけるデザインの未来」「デザイン経営の始め方」などについて講演。

大デザイン展
2023年9月9日～10日 <p>開催場所/実施主体:ピビピット オフィス (新宿) https://www.vivivit.com/events/dezanare/exhibition/2023</p>
「年にいちど、デザインナレッジの棚卸し」をテーマに、日本を代表するデザインチームとの交流を目的とする「スペース」と、実務から編み出された先端知識の獲得を目的とする「シンポジウム」を開催。スペースではチームラボやsansanなど25社、シンポジウムにはSUZUKIや富士通、モリサワなどを28社のデザイナーが出席。
北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2023
2023年9月15日～10月29日 <p>開催場所/実施主体:富山県富山市 富岩運河沿い https://goforkogei.com/</p>
富山、石川、福井の北陸3県を舞台に、工芸の魅力を今日の視点から発信するプラットホームとして2020年に始まった祭典。本年は、富山市の中心部から富山湾に続く富岩運河沿いの3エリアを会場に、工芸、現代アート、アール・ブリュットの分野を跨ぐアーティスト26名が参加する展覧会や、工芸をキーワードに北陸をつなぐ連携プログラムなどを開催。
高岡クラフト市場街
2023年9月23日～25日 <p>開催場所/実施主体:高岡市 https://chibamachi.jp/</p>
市場街(イチバマチ)は、「人と物とが行き交いそこから新たな価値観や関係性が生まれる場」という意味でつけられた名。工芸産地ならではのオープンファクトリーやワークショップ、高岡鑄物発祥の地を体感できるマルシェイベント、期間限定グルメなど、1日かけて楽しめる40以上のクラフトイベントを開催。
あさひかわデザインウィーク
2023年6月17日～25日 <p>開催場所/実施主体:旭川市/あさひかわデザインウィーク実行委員会 https://adwhokkaido.com</p>
2019年に「ユネスコデザイン創造都市」となった旭川市が2015年から開催する道北のデザインイベント。「ユネスコデザイン都市ブランドフォルタレザと旭川市の交流ポスター展」や「ADWものづくりツアー」などを開催。世界とつながることで国際的なデザインイベントとして発展させるため、海外から講演者やゲストを数多く招聘。
千年未来工藝祭
2023年8月26日～27日 <p>開催場所/実施主体:越前市 https://craft1000mirai.jp</p>
現代を生きる若者たちに、つくり手の技や製品、人柄に触れることで、工藝や手仕事を身近に感じてもらうとともに、次世代への継承のきっかけづくりを目指す2日間の工藝祭。人、技、地域、過去から現在、そして未来などさまざまな点をつなぎ、結び付けることを最大の目的とし、クラフト展示販売やワークショップを開催。
第1回日本国際芸術祭
2023年9月1日～10月15日 <p>開催場所/実施主体:醍醐寺ほか https://yumeshimakikou.org/wp-content/uploads/ja_jiaf_pamphlet_1013.pdf</p>
2025年の日本国際博覧会を契機に開催された芸術祭。アート、デザイン、サイエンス、テクノロジー、経済の共創の輪を大阪や全国につなげるため、京都府内の画廊や工房、企業ショールーム、大学研究室、美術館、工場（オープンファクトリー）、寺社仏閣など、京都を中心に展開。

大デザイン展
2023年9月9日～10日 <p>開催場所/実施主体:ピビピット オフィス (新宿) https://www.vivivit.com/events/dezanare/exhibition/2023</p>
「年にいちど、デザインナレッジの棚卸し」をテーマに、日本を代表するデザインチームとの交流を目的とする「スペース」と、実務から編み出された先端知識の獲得を目的とする「シンポジウム」を開催。スペースではチームラボやsansanなど25社、シンポジウムにはSUZUKIや富士通、モリサワなどを28社のデザイナーが出席。
北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2023
2023年9月15日～10月29日 <p>開催場所/実施主体:富山県富山市 富岩運河沿い https://goforkogei.com/</p>
富山、石川、福井の北陸3県を舞台に、工芸の魅力を今日の視点から発信するプラットホームとして2020年に始まった祭典。本年は、富山市の中心部から富山湾に続く富岩運河沿いの3エリアを会場に、工芸、現代アート、アール・ブリュットの分野を跨ぐアーティスト26名が参加する展覧会や、工芸をキーワードに北陸をつなぐ連携プログラムなどを開催。
高岡クラフト市場街
2023年9月23日～25日 <p>開催場所/実施主体:高岡市 https://chibamachi.jp/</p>
市場街(イチバマチ)は、「人と物とが行き交いそこから新たな価値観や関係性が生まれる場」という意味でつけられた名。工芸産地ならではのオープンファクトリーやワークショップ、高岡鑄物発祥の地を体感できるマルシェイベント、期間限定グルメなど、1日かけて楽しめる40以上のクラフトイベントを開催。
あさひかわデザインウィーク
2023年6月17日～25日 <p>開催場所/実施主体:旭川市/あさひかわデザインウィーク実行委員会 https://adwhokkaido.com</p>
2019年に「ユネスコデザイン創造都市」となった旭川市が2015年から開催する道北のデザインイベント。「ユネスコデザイン都市ブランドフォルタレザと旭川市の交流ポスター展」や「ADWものづくりツアー」などを開催。世界とつながることで国際的なデザインイベントとして発展させるため、海外から講演者やゲストを数多く招聘。
千年未来工藝祭
2023年8月26日～27日 <p>開催場所/実施主体:越前市 https://craft1000mirai.jp</p>
現代を生きる若者たちに、つくり手の技や製品、人柄に触れることで、工藝や手仕事を身近に感じてもらうとともに、次世代への継承のきっかけづくりを目指す2日間の工藝祭。人、技、地域、過去から現在、そして未来などさまざまな点をつなぎ、結び付けることを最大の目的とし、クラフト展示販売やワークショップを開催。
第1回日本国際芸術祭
2023年9月1日～10月15日 <p>開催場所/実施主体:醍醐寺ほか https://yumeshimakikou.org/wp-content/uploads/ja_jiaf_pamphlet_1013.pdf</p>
2025年の日本国際博覧会を契機に開催された芸術祭。アート、デザイン、サイエンス、テクノロジー、経済の共創の輪を大阪や全国につなげるため、京都府内の画廊や工房、企業ショールーム、大学研究室、美術館、工場（オープンファクトリー）、寺社仏閣など、京都を中心に展開。

大デザイン展
2023年9月9日～10日 <p>開催場所/実施主体:ピビピット オフィス (新宿) https://www.vivivit.com/events/dezanare/exhibition/2023</p>
「年にいちど、デザインナレッジの棚卸し」をテーマに、日本を代表するデザインチームとの交流を目的とする「スペース」と、実務から編み出された先端知識の獲得を目的とする「シンポジウム」を開催。スペースではチームラボやsansanなど25社、シンポジウムにはSUZUKIや富士通、モリサワなどを28社のデザイナーが出席。
北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2023
2023年9月15日～10月29日 <p>開催場所/実施主体:富山県富山市 富岩運河沿い https://goforkogei.com/</p>
富山、石川、福井の北陸3県を舞台に、工芸の魅力を今日の視点から発信するプラットホームとして2020年に始まった祭典。本年は、富山市の中心部から富山湾に続く富岩運河沿いの3エリアを会場に、工芸、現代アート、アール・ブリュットの分野を跨ぐアーティスト26名が参加する展覧会や、工芸をキーワードに北陸をつなぐ連携プログラムなどを開催。
高岡クラフト市場街
2023年9月23日～25日 <p>開催場所/実施主体:高岡市 https://chibamachi.jp/</p>
市場街(イチバマチ)は、「人と物とが行き交いそこから新たな価値観や関係性が生まれる場」という意味でつけられた名。工芸産地ならではのオープンファクトリーやワークショップ、高岡鑄物発祥の地を体感できるマルシェイベント、期間限定グルメなど、1日かけて楽しめる40以上のクラフトイベントを開催。
あさひかわデザインウィーク
2023年6月17日～25日 <p>開催場所/実施主体:旭川市/あさひかわデザインウィーク実行委員会 https://adwhokkaido.com</p>
2019年に「ユネスコデザイン創造都市」となった旭川市が2015年から開催する道北のデザインイベント。「ユネスコデザイン都市ブランドフォルタレザと旭川市の交流ポスター展」や「ADWものづくりツアー」などを開催。世界とつながることで国際的なデザインイベントとして発展させるため、海外から講演者やゲストを数多く招聘。
千年未来工藝祭
2023年8月26日～27日 <p>開催場所/実施主体:越前市 https://craft1000mirai.jp</p>
現代を生きる若者たちに、つくり手の技や製品、人柄に触れることで、工藝や手仕事を身近に感じてもらうとともに、次世代への継承のきっかけづくりを目指す2日間の工藝祭。人、技、地域、過去から現在、そして未来などさまざまな点をつなぎ、結び付けることを最大の目的とし、クラフト展示販売やワークショップを開催。
第1回日本国際芸術祭
2023年9月1日～10月15日 <p>開催場所/実施主体:醍醐寺ほか https://yumeshimakikou.org/wp-content/uploads/ja_jiaf_pamphlet_1013.pdf</p>
2025年の日本国際博覧会を契機に開催された芸術祭。アート、デザイン、サイエンス、テクノロジー、経済の共創の輪を大阪や全国につなげるため、京都府内の画廊や工房、企業ショールーム、大学研究室、美術館、工場（オープンファクトリー）、寺社仏閣など、京都を中心に展開。

大デザイン展
2023年9月9日～10日 <p>開催場所/実施主体:ピビピット オフィス (新宿) https://www.vivivit.com/events/dezanare/exhibition/2023</p>
「年にいちど、デザインナレッジの棚卸し」をテーマに、日本を代表するデザインチームとの交流を目的とする「スペース」と、実務から編み出された先端知識の獲得を目的とする「シンポジウム」を開催。スペースではチームラボやsansanなど25社、シンポジウムにはSUZUKIや富士通、モリサワなどを28社のデザイナーが出席。
北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2023
2023年9月15日～10月29日 <p>開催場所/実施主体:富山県富山市 富岩運河沿い https://goforkogei.com/</p>
富山、石川、福井の北陸3県を舞台に、工芸の魅力を今日の視点から発信するプラットホームとして2020年に始まった祭典。本年は、富山市の中心部から富山湾に続く富岩運河沿いの3エリアを会場に、工芸、現代アート、アール・ブリュットの分野を跨ぐアーティスト26名が参加する展覧会や、工芸をキーワードに北陸をつなぐ連携プログラムなどを開催。
高岡クラフト市場街
2023年9月23日～25日 <p>開催場所/実施主体:高岡市 https://chibamachi.jp/</p>
市場街(イチバマチ)は、「人と物とが行き交いそこから新たな価値観や関係性が生まれる場」という意味でつけられた名。工芸産地ならではのオープンファクトリーやワークショップ、高岡鑄物発祥の地を体感できるマルシェイベント、期間限定グルメなど、1日かけて楽しめる40以上のクラフトイベントを開催。
あさひかわデザインウィーク
2023年6月17日～25日 <p>開催場所/実施主体:旭川市/あさひかわデザインウィーク実行委員会 https://adwhokkaido.com</p>
2019年に「ユネスコデザイン創造都市」となった旭川市が2015年から開催する道北のデザインイベント。「ユネスコデザイン都市ブランドフォルタレザと旭川市の交流ポスター展」や「ADWものづくりツアー」などを開催。世界とつながることで国際的なデザインイベントとして発展させるため、海外から講演者やゲストを数多く招聘。
千年未来工藝祭
2023年8月26日～27日 <p>開催場所/実施主体:越前市 https://craft1000mirai.jp</p>
現代を生きる若者たちに、つくり手の技や製品、人柄に触れることで、工藝や手仕事を身近に感じてもらうとともに、次世代への継承のきっかけづくりを目指す2日間の工藝祭。人、技、地域、過去から現在、そして未来などさまざまな点をつなぎ、結び付けることを最大の目的とし、クラフト展示販売やワークショップを開催。
第1回日本国際芸術祭
2023年9月1日～10月15日 <p>開催場所/実施主体:醍醐寺ほか https://yumeshimakikou.org/wp-content/uploads/ja_jiaf_pamphlet_1013.pdf</p>
2025年の日本国際博覧会を契機に開催された芸術祭。アート、デザイン、サイエンス、テクノロジー、経済の共創の輪を大阪や全国につなげるため、京都府内の画廊や工房、企業ショールーム、大学研究室、美術館、工場（オープンファクトリー）、寺社仏閣など、京都を中心に展開。

大デザイン展
2023年9月9日～10日 <p>開催場所/実施主体:ピビピット オフィス (新宿) https://www.vivivit.com/events/dezanare/exhibition/2023</p>
「年にいちど、デザインナレッジの棚卸し」をテーマに、日本を代表するデザインチームとの交流を目的とする「スペース」と、実務から編み出された先端知識の獲得を目的とする「シンポジウム」を開催。スペースではチームラボやsansanなど25社、シンポジウムにはSUZUKIや富士通、モリサワなどを28社のデザイナーが出席。
北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2023
2023年9月15日～10月29日 <p>開催場所/実施主体:富山県富山市 富岩運河沿い https://goforkogei.com/</p>
富山、石川、福井の北陸3県を舞台に、工芸の魅力を今日の視点から発信するプラットホームとして2020年に始まった祭典。本年は、富山市の中心部から富山湾に続く富岩運河沿いの3エリアを会場に、工芸、現代アート、アール・ブリュットの分野を跨ぐアーティスト26名が参加する展覧会や、工芸をキーワードに北陸をつなぐ連携プログラムなどを開催。
高岡クラフト市場街
2023年9月23日～25日 <p>開催場所/実施主体:高岡市 https://chibamachi.jp/</p>
市場街(イチバマチ)は、「人と物とが行き交いそこから新たな価値観や関係性が生まれる場」という意味でつけられた名。工芸産地ならではのオープンファクトリーやワークショップ、高岡鑄物発祥の地を体感できるマルシェイベント、期間限定グルメなど、1日かけて楽しめる40以上のクラフトイベントを開催。
あさひかわデザインウィーク
2023年6月17日～25日 <p>開催場所/実施主体:旭川市/あさひかわデザインウィーク実行委員会 https://adwhokkaido.com</p>
2019年に「ユネスコデザイン創造都市」となった旭川市が2015年から開催する道北のデザインイベント。「ユネスコデザイン都市ブランドフォルタレザと旭川市の交流ポスター展」や「ADWものづくりツアー」などを開催。世界とつながることで国際的なデザインイベントとして発展させるため、海外から講演者やゲストを数多く招聘。
千年未来工藝祭
2023年8月26日～27日 <p>開催場所/実施主体:越前市 https://craft1000mirai.jp</p>
現代を生きる若者たちに、つくり手の技や製品、人柄に触れることで、工藝や手仕事を身近に感じてもらうとともに、次世代への継承のきっかけづくりを目指す2日間の工藝祭。人、技、地域、過去から現在、そして未来などさまざまな点をつなぎ、結び付けることを最大の目的とし、クラフト展示販売やワークショップを開催。
第1回日本国際芸術祭
2023年9月1日～10月15日 <p>開催場所/実施主体:醍醐寺ほか https://yumeshimakikou.org/wp-content/uploads/ja_jiaf_pamphlet_1013.pdf</p>
2025年の日本国際博覧会を契機に開催された芸術祭。アート、デザイン、サイエンス、テクノロジー、経済の共創の輪を大阪や全国につなげるため、京都府内の画廊や工房、企業ショールーム、大学研究室、美術館、工場（オープンファクトリー）、寺社仏閣など、京都を中心に展開。

大デザイン展
2023年9月9日～10日 <p>開催場所/実施主体:ピビピット オフィス (新宿) https://www.vivivit.com/events/dezanare/exhibition/2023</p>
「年にいちど、デザインナレッジの棚卸し」をテーマに、日本を代表するデザインチームとの交流を目的とする「スペース」と、実務から編み出された先端知識の獲得を目的とする「シンポジウム」を開催。スペースではチームラボやsansanなど25社、シンポジウムにはSUZUKIや富士通、モリサワなどを28社のデザイナーが出席。
北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2023
2023年9月15日～10月29日 <p>開催場所/実施主体:富山県富山市 富岩運河沿い https://goforkogei.com/</p>
富山、石川、福井の北陸3県を舞台に、工芸の魅力を今日の視点から発信するプラットホームとして2020年に始まった祭典。本年は、富山市の中心部から富山湾に続く富岩運河沿いの3エリアを会場に、工芸、現代アート、アール・ブリュットの分野を跨ぐアーティスト26名が参加する展覧会や、工芸をキーワードに北陸をつなぐ連携プログラムなどを開催。
高岡クラフト市場街
2023年9月23日～25日 <p>開催場所/実施主体:高岡市 https://chibamachi.jp/</p>
市場街(イチバマチ)は、「人と物とが行き交いそこから新たな価値観や関係性が生まれる場」という意味でつけられた名。工芸産地ならではのオープンファクトリーやワークショップ、高岡鑄物発祥の地を体感できるマルシェイベント、期間限定グルメなど、1日かけて楽しめる40以上のクラフトイベントを開催。
あさひかわデザインウィーク
2023年6月17日～25日 <p>開催場所/実施主体:旭川市/あさひかわデザインウィーク実行委員会 https://adwhokkaido.com</p>
2019年に「ユネスコデザイン創造都市」となった旭川市が2015年から開催する道北のデザインイベント。「ユネスコデザイン都市ブランドフォルタレザと旭川市の交流ポスター展」や「ADWものづくりツアー」などを開催。世界とつながることで国際的なデザインイベントとして発展させるため、海外から講演者やゲストを数多く招聘。
千年未来工藝祭
2023年8月26日～27日 <p>開催場所/実施主体:越前市 https://craft1000mirai.jp</p>
現代を生きる若者たちに、つくり手の技や製品、人柄に触れることで、工藝や手仕事を身近に感じてもらうとともに、次世代への継承のきっかけづくりを目指す2日間の工藝祭。人、技、地域、過去から現在、そして未来などさまざまな点をつなぎ、結び付けることを最大の目的とし、クラフト展示販売やワークショップを開催。
第1回日本国際芸術祭
2023年9月1日～10月15日 <p>開催場所/実施主体:醍醐寺ほか https://yumeshimakikou.org/wp-content/uploads/ja_jiaf_pamphlet_1013.pdf</p>
2025年の日本国際博覧会を契機に開催された芸術祭。アート、デザイン、サイエンス、テクノロジー、経済の共創の輪を大阪や全国につなげるため、京都府内の画廊や工房、企業ショールーム、大学研究室、美術館、工場（オープンファクトリー）、寺社仏閣など、京都を中心に展開。

大デザイン展
2023年9月9日～10日 <p>開催場所/実施主体:ピビピット オフィス (新宿) https://www.vivivit.com/events/dezanare/exhibition/2023</p>
「年にいちど、デザインナレッジの棚卸し」をテーマに、日本を代表するデザインチームとの交流を目的とする「スペース」と、実務から編み出された先端知識の獲得を目的とする「シンポジウム」を開催。スペースではチームラボやsansanなど25社、シンポジウムにはSUZUKIや富士通、モリサワなどを28社のデザイナーが出席。
北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2023
2023年9月15日～10月29日 <p>開催場所/実施主体:富山県富山市 富岩運河沿い https://goforkogei.com/</p>
富山、石川、福井の北陸3県を舞台に、工芸の魅力を今日の視点から発信するプラットホームとして2020年に始まった祭典。本年は、富山市の中心部から富山湾に続く富岩運河沿いの3エリアを会場に、工芸、現代アート、アール・ブリュットの分野を跨ぐアーティスト26名が参加する展覧会や、工芸をキーワードに北陸をつなぐ連携プログラムなどを開催。
高岡クラフト市場街
2023年9月23日～25日 <p>開催場所/実施主体:高岡市 https://chibamachi.jp/</p>
市場街(イチバマチ)は、「人と物とが行き交いそこから新たな価値観や関係性が生まれる場」という意味でつけられた名。工芸産地ならではのオープンファクトリーやワークショップ、高岡鑄物発祥の地を体感できるマルシェイベント、期間限定グルメなど、1日かけて楽しめる40以上のクラフトイベントを開催。
あさひかわデザインウィーク
2023年6月17日～25日 <p>開催場所/実施主体:旭川市/あさひかわデザインウィーク実行委員会 https://adwhokkaido.com</p>
2019年に「ユネスコデザイン創造都市」となった旭川市が2015年から開催する道北のデザインイベント。「ユネスコデザイン都市ブランドフォルタレザと旭川市の交流ポスター展」や「ADWものづくりツアー」などを開催。世界とつながることで国際的なデザインイベントとして発展させるため、海外から講演者やゲストを数多く招聘。
千年未来工藝祭
2023年8月26日～27日 <p>開催場所/実施主体:越前市 https://craft1000mirai.jp</p>
現代を生きる若者たちに、つくり手の技や製品、人柄に触れることで、工藝や手仕事を身近に感じてもらうとともに、次世代への継承のきっかけづくりを目指す2日間の工藝祭。人、技、地域、過去から現在、そして未来などさまざまな点をつなぎ、結び付けることを最大の目的とし、クラフト展示販売やワークショップを開催。
第1回日本国際芸術祭
2023年9月1日～10月15日 <p>開催場所/実施主体:醍醐寺ほか https://yumeshimakikou.org/wp-content/uploads/ja_jiaf_pamphlet_1013.pdf</p>
2025年の日本国際博覧会を契機に開催された芸術祭。アート、デザイン、サイエンス、テクノロジー、経済の共創の輪を大阪や全国につなげるため、京都府内の画廊や工房、企業ショールーム、大学研究室、美術館、工場（オープンファクトリー）、寺社仏閣など、京都を中心に展開。

さらに、コンセプトツアーや新たなデザインの展示など、多様な視点で地域のものづくりや職人の活動を紹介。

TOKYO DESIGN WEEK 2023 RESTART
2023年11月17日～19日 <p>開催場所/実施主体:スパイラルホール http://tokyodesignweek.jp/restart.html</p>
TOKYOと人(クリエイター)をベースにしたイベントを目指し、7年ぶりに開催。「建築」をテーマに「建築家やクリエイターを目指す若者へのメッセージ」として本展覧会を開催。観客を交え建築、社会、人間について掘り下げられるリレー形式のトークイベントや日本を代表する建築家の建築模型と提案書などを紹介。

福井県鯖江市、越前市、越前町で開催された持続可能な地域づくりを目指した工房見学イベント。越前漆器、越前和紙、越前打刃物、越前軍笥、越前焼、眼鏡、繊維の7産地の工房・企業を一斉開放し、見学やワークショップを通じて商品の購入も楽しめる。社会的意義の高い活動を行う全国各地のローカルプレイヤーが産地に集うマーケット「まち／ひと／しごと -Localism Expo Fukui-」も開催。

Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2023
2023年10月6日～29日 <p>開催場所/実施主体:東京ミッドタウン https://www.tokyo-midtown.com/jp/event/designtouch/</p>
「デザインを五感で楽しむ」を目指し2007年から開催。2017年からは「国内外の第一線で活躍するデザイナーや注目されるデザインが集結し、デザインの魅力や可能性を身近に体感できるデザインの祭典」をコンセプトとする。インテリアやグラフィック、プロダクトをはじめ、ミュージック、フードなど文化を形成するものすべてを「デザイン」として捉え、それらをおとして日常生活を豊かにすることを提案。

KUTANism 2023
2023年10月6日～11月5日 <p>開催場所/実施主体:小松市・能美市 https://kutanism.com/</p>
色あざやかな焼き物「九谷焼」を見る／知る／めぐる、芸術祭。5回目となる今回は「産地で九谷焼を楽しむプログラム」を31日間にわたり開催。11カ所の工房・窯元の仕事を公開し、制作現場を体感できるワークショップや九谷焼スポットの見学、緑豊かな「苔の里」での展覧会など産地ならではのイベント。

北のクラフトフェア
2023年10月7日～9日 <p>開催場所/実施主体:岩手公園(盛岡城跡公園)/北のクラフトフェア実行委員会 https://kitanocraft.com/</p>
市民有志が企画・運営を行い、盛岡市の協力のもと2022年に第1回を開催。トークイベントやライブを通して公園をよりよい場所とするとともに、良質な工芸作品と出会う場を新たに作り出し、「工芸のまち、盛岡」を発信。クラフト作品の展示販売や、デザイナーの皆川 明などをパネリストに迎えたトークセッションを開催。

DESIGNART TOKYO
2023年10月20日～29日 <p>開催場所/実施主体:表参道・外苑前ほか https://designart.jp/</p>
「INTO THE EMOTIONS～感動の入口～」をコンセプトに、2017年にスタートしたデザイン & アートフェスティバル。世界屈指のミック スカルチャー都市である東京を舞台に、世界中からインテリア、アート、ファッション、テクノロジー、フードなど、多彩なジャンルをリードする才能が集結し、都内各所で多彩な展示を開催。

燕三条 工場の祭典
2023年10月26日～29日 <p>開催場所/実施主体:燕・三条地区 https://kouba-fes.jp/#a10</p>
「知ってもらうから“使ってもらう”へ。“参加する”から“作る・学ぶ”へ。」「燕三条 工場の祭典 2023」のテーマは「WHAT IS KOUBA?」。多様なものづくりが重なり合う「KOUBA」の本質を探索し、その魅力を発信。工場見学だけでなく、トークショーでは特別ゲストを招待。

アンディ・ウォーホル・キョウト
2022年9月17日～2023年2月12日 <p>開催場所/実施主体:京都市京セラ美術館 https://kyotocity-kyocera-museum/exhibition/20220917-20230212</p>
ポップ・アートの旗手として、アメリカの大量消費社会の光と影を描いたアンディ・ウォーホルの大回顧展。1950年代の初期作品から映像作品、1960年代の「死と惨事」シリーズや映像作品、注文肖像画、カトリックの生い立ちに触れる晩年の作品のほか、京都にちなんだ作品などを展示。100点以上が日本初公開。

クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ
2022年12月21日～2023年5月28日 <p>開催場所/実施主体:東京都現代美術館 https://www.mot-art-museum.jp/exhibitions/Christian_Dior/</p>
本展は、クリスチャン・ディオールと日本との真摯かつ貴重な絆を称える特別な展覧会。パリ、ロンドン、ニューヨークのほか、中国、ドーハなど世界を巡回してきた大回顧展を建築家・重松象平の空間演出とフロランス・ミユラーのキュレーションにより再構成。アクセサリーやオートクチュールモデルだけでなく後継者の歴代クリエイティブディレクターたちが考案した作品も公開。

ゼミ展2023
2023年1月10日～2月12日 <p>開催場所/実施主体:東京ミッドタウン・デザインハブ https://www.designhub.jp/exhibitions/8315</p>
デザイン教育の一端を「課題と作品」という形式で紹介する企画展。2018年から開催しており、今年は全国から出展校を募り、プロダクト、グラフィック、情報デザイン、建築などを専門とする11のゼミが参加。それぞれのゼミならではのデザインへのアプローチや学生の視点が特徴となる。会期中、各ゼミによるギャラリートツアーを開催。

グッドデザイン九州2022
2023年1月11日～15日 <p>開催場所/実施主体:福岡市美術館 https://gdq.jp/</p>
「九州産まれの良いデザインにふれる機会を、九州に。」を合言葉に九州の素晴らしいものづくりやデザインを見る、触れることを目的とした展示会。最新の2022年度グッドデザイン賞受賞作品や過去に受賞した作品、アップデートされた作品などを含め多様なジャンルから出展された作品を公開。

デザインスコープーのぞくふしぎ きづくふしぎ
2022年12月10日～2023年3月5日 <p>開催場所/実施主体:富山県美術館 https://tad-toyama.jp/exhibition-event/16596</p>
「デザイン」というレンズを通した視点を「デザインスコープ (design-scope)」と名付け、現在第一線で活躍するデザイナーやアーティストと対話を重ね、デザインとアートが限りなく近づく現在の状況をミクロ/マクロの視点から俯瞰。本展のために新たに制作された作品や、音や映像などを用いた空間全体を楽しむことができる展示を通して、デザインとアートの持つ創造的なエネルギーを体感し、次世代に向けた可能性を発信。

展野しずか「exhibition "a moment in time –trees-”
2022年12月17日～2023年2月5日 <p>開催場所/実施主体:Karimoku Commons Tokyo</p>

交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー
2022年12月17日～2023年3月5日 <p>開催場所/実施主体</p>

Parallel Lives 平行人生
一新宮 晋+レンゾ・ピアノ展
2023年7月13日～9月14日
開催場所 / 実施主体:大阪中之島美術館
https://nakka-art.jp/exhibition-post/parallel-lives/

日本とイタリアの芸術家、新宮 晋とレンゾ・ピアノ、同い年の2人の平行する人生と作品を紹介する展覧会。ふたりの世界規模のダイナミックな歩みを辿りながら、現在進行形の創作活動と世界観を紹介。スケッチや設計図、作品写真をもとにイタリアの映像集団スタジオ・アズーロが、創造の世界と煌めく交差の軌跡を壮大なスケールの映像で表現。

山水郷のデザイン3
-地域の価値の耕し方と伝え方
2023年7月14日～8月13日
開催場所 / 実施主体:GOOD DESIGN Marunouch
https://marunouchi.g-mark.org/exhibition118.html

「山水郷」は、「山水」の恵みと人のつながりから、豊かな営みが生まれている「郷」を意味する造語である。今、その土地でしかできない仕事や生き方を愉しみが創るデザイナーたちが日本を変えはじめている。本展は、デザイナーが活動している地域において「デザインに取り組む目線や思考、言葉」など自身の活動をパネル化し、作品として紹介。

Material, or
2023年7月14日～11月5日
開催場所 / 実施主体:21_21 DESIGN SIGHT/21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一デザイン文化財団
https://www.2121designsight.jp/program/material/

これまで人間が営んできた自然との多様な関わり方をアートやデザイン、人類学の観点から紐解くと同時に、最先端のマテリアルサイエンスがわれわれの感覚をどのようにアップデートしてくれるのかを紹介。デザイナーによるプロダクトや工芸作家による作品、動植物や有機物によるマテリアルへのアプローチなど多様な事例をもとに大きく3つの視点から人と「マテリアル」のつながりを読み解く。

中川 衛
美しき金工とデザイン
2023年7月15日～9月18日
開催場所 / 実施主体:パナソニック汐留美術館
https://panasonic.co.jp/ew/museum/exhibition/23/230715/

パナソニック出身で石川県金沢市を拠点に活動する金工作家で重要無形文化財「彫金」保持者（人間国宝）の中川 衛を紹介する展覧会。「工芸も工業デザインも発想や創作の展開は同じである」とする中川が1970～80年代に手がけたプロダクトデザインや加賀家嶺の名品、現代アーティストとのコラボレーションした作品や資料など約130点を「デザイン」という視点で構成し紹介。

NAOTO FUKASAWA EXHIBITION
2023年9月7日～10月22日
開催場所 / 実施主体:B&B Italia Tokyo
https://bebitalia.co.jp/news/naoto-fukasawa-exhibition/

日本人デザイナーの先駆者であり「私たちが行動する環境下に無意識に溶け込むデザインを見出し多くの人が共感できる「アウトライン」を形にする」というデザイン哲学を持つ深澤直人に焦点をあてたエキシビジョン。2005年から始まったB&B Italiaとのコラボレーション製品「Shelf X」や屋外家具など「美しきアウトラインの軌跡」であるプロダクトを一堂に展示。

石岡瑛子 I デザイン
2023年9月9日～11月12日
開催場所 / 実施主体:北九州市立美術館
https://kmma.jp/exhibition/?E=7%9F%83%B3%E5%82%A1%E7%91%98%E5%AD%90%E3%83%B7%E3%82%B6%E3%82%A4%E3%83%B3/

広告、舞台、映画などジャンルや国境を超え、世界的に活躍したデザイナー石岡瑛子の没後10年の節目となる展覧会。東京を拠点にしていた1960～80年代の仕事を中心に、ポスターやCM、アートワークからスケッチまで400点以上の作品を一挙公開し、多様な分野のトップランナーたちとの協働作業で生まれたクリエイションの核となる「I＝私」に迫る。

「手土産の用意」とは、誰のための手土産なのか、どのような状況で用意をするのか、飲食物であるのか、相手の好みへの配慮など骨の折れる作業であるとともに、相手を思う遣いにもつながる大切な行為である。本展では、グラフィックデザイナーや造形作家、建築家、家具デザイナーなどの日本デザインコミッティーメンバーが選んだ手土産の数々をコメントとともに紹介。

ジョセフ・アルパースの授業
2023年7月29日～11月5日
開催場所 / 実施主体:DIC川村記念美術館 / DIC 株式会社
https://kawamura-museum.dic.co.jp/art/exhibition-past/2023/albers/

画家、デザイナーでありバウハウスやイェール大学の美術教師として知られているジョセフ・アルパースの日本初となる回顧展。バウハウス時代のガラス作品、家具や食器などのデザイン、絵画シリーズ等の作品に加えジョセフ・アルパースの授業映像や教え子の作品を紹介し、制作者 / 教師という両側面から作家にアプローチした展覧会。

THE ENDING´23
2023年8月1日～16日
開催場所 / 実施主体:クリエイションギャラリー G8
http://fcc.recruit.co.jp/g8/exhibition/2308/2308.html

38年間におよび活動を続けてきたクリエイションギャラリーG8最後の展覧会。グラフィックデザインを中心に、クリエイターのビジュアル表現の実験と制作発表の場としてこれまで開催した400本を超える展覧会のポスターとクリエイターによるトークショー映像で活動を振り返る。デザイナーやイラストレーター、アーティストに16人、8組が3日間ずつのリレー形式で行うふたり展とトークショーも開催。

大丸有フォトアーカイブ みんなの写真展 Revisited - 蓄積された時を撮る -
2023年8月25日～9月13日
開催場所 / 実施主体:GOOD DESIGN Marunouch / エコツヴェリア協会（一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会）
https://marunouchi.g-mark.org/exhibition119.html

エコツヴェリア協会が2022年から主催する「大丸有フォトアーカイブ」の初の写真作品展。「再訪」「再考」「見直す」という意味をもつ「Revisited」をテーマに、大丸有エリア周辺の写真データを募集、選出された30点を展示。かつての丸の内の街の風景をつづけていたデザインとして、建て替え前のビルで使用されていた内外装材などの一部を併せて公開。

日本のグラフィックデザイン2023
2023年9月1日～10月19日
開催場所 / 実施主体:東京ミッドタウン・デザインハブ
https://www.designhub.jp/exhibitions/gdj2023

本展では、年鑑2023年版の掲載作品の中から約300点を実物と映像で公開。展示カテゴリーは、身近な雑貨から、書籍、商品パッケージ、シンボル・ロゴ、ポスター、ウェブサイト、映像、ブック・エディトリアル、新聞広告・雑誌広告、展覧会やショップの空間デザインに至るまで、日本のグラフィックデザインの現在を紹介。

野澤徹夫　偶然は用意のあるところ
2023年9月14日～11月26日
開催場所 / 実施主体:TOTO ギャラリー-間
https://jp.toto.com/gallery/ex230914/index.htm

京都市セラ美術館や八戸市 美術館などの設計を手がけた建築家、西澤徹夫の初個展。本展のタイトル「偶然は用意のあるところ」には、フランスの細菌学者ルイ・パスツールの有名な格言を「いまだ見えていない核心に触れるためにできる限りすべての準備を整えておく」という西澤の建築に対する真摯な向き合い方に重ね合わせていて、建築模型や図面等を交えながらこれまでの取り組みを公開。

Genderの世界線　東京藝術大学デザイン科 課題成果展
2023年9月16日～30日
開催場所 / 実施主体:GOOD DESIGN Marunouch / 東京藝術大学デザイン科
https://marunouchi.g-mark.org/exhibition120.html

Perfume COSTUME MUSEUM
2023年9月9日～11月26日
開催場所 / 実施主体:兵庫県立美術館
https://www.artm.pref.hyogo.jp/exhibition/t_2309/

『Perfume COSTUME BOOK 2005-2020』を起点に、2005年のメジャーデビューの楽曲から近年の衣装まで、厳選した約170着の衣装を展示する初めての大規模衣装展。ハイヒールや衣装に合わせて制作された帽子やヘアアクセサリーなどの小物、初公開となる型紙やデザインの発想源を示す制作資料もあわせて紹介。これまで大切に保管されてきたコスチュームから、Perfumeの魅力をもとく展覧会。

超絶技巧！ 明治工芸の粋
2023年9月12日～11月26日
開催場所 / 実施主体:三井記念美術館
https://www.mitsui-museum.jp/exhibition/list.html

明治工芸のDNAを受け継ぎ、金属、木、陶磁、漆、ガラス、紙などさまざまな素材を用いて「超絶技巧プラスα」の美意識と並外れたインテリジェンスに裏打ちされた現代作家17名の作品64点と超絶技巧のルーツでもある七宝、金工、漆工、木彫、陶磁、刺繍絵画など明治工芸57点をあわせて展示。

「横尾忠則　寒山百得」展
2023年9月12日～12月3日
開催場所 / 実施主体:東京都国立博物館
https://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=2598

現代美術家 横尾忠則が独自の解釈で再構築した作品「寒山拾得」シリーズは、寒山と拾得という中国、唐の時代に生きた伝説的なふたりの詩僧を独自に解釈し新たな寒山拾得像を切り拓いたものである。本展では、画家活動の最大のシリーズとなる「寒山拾得」の完全新作102点を一挙初公開。

第785回デザインギャラリー1953企画展「倉本仁　素材と心中」
2023年9月13日～11月6日
開催場所 / 実施主体:デザインギャラリー1953
https://designcommittee.jp/gallery/2023/09/dg785.html

2008年から自身のスタジオ、JIN KURAMOTO STUDIOを主催し、自動車、家具、家電、アイウェアなど多彩な作品を国内外で発表している若手のプロダクトデザイナー-倉本仁の展覧会。日本で発表していない作品も含め、作者の精神が反映された約25点のプロダクトを展示。併せてグラフィックデザイナー / アーティレクターである色部義昭とのデザインサロントークを開催。

吉岡徳仁 FLAME ガラスのトーチとモニュメント
2023年9月14日～11月5日
開催場所 / 実施主体:21_21 DESIGN SIGHT/ TOKUJIN YOSHIOKA +TYD
https://www.2121designsight.jp/gallery3/tokujin_yoshioka_flame/

吉岡徳仁が炎から放たれる「光」に着目し、2024年に開催される国民スポーツ大会（旧団体）SAGA2024のセレモニーに向けて制作した「ガラスのトーチ」と「炎のモニュメント」ガラスの炬火台」を発表。併せて、代表作であるガラスのベンチ「Water Block」をはじめ、MIYAKE DESIGN STUDIO が炎を灯すセレモニーのために手がけた衣服などを展示。

西澤徹夫　偶然は用意のあるところ
2023年9月14日～11月26日
開催場所 / 実施主体:TOTO ギャラリー-間
https://jp.toto.com/gallery/ex230914/index.htm

京都市セラ美術館や八戸市 美術館などの設計を手がけた建築家、西澤徹夫の初個展。本展のタイトル「偶然は用意のあるところ」には、フランスの細菌学者ルイ・パスツールの有名な格言を「いまだ見えていない核心に触れるためにできる限りすべての準備を整えておく」という西澤の建築に対する真摯な向き合い方に重ね合わせていて、建築模型や図面等を交えながらこれまでの取り組みを公開。

私の選んだ一品2023　デザインよろこび
2023年10月5日～11月30日（10/23～11/7を除く）
開催場所 / 実施主体:GOOD DESIGN Marunouch
https://marunouchi.g-mark.org/exhibition121.html

デザインの楽しさやよろこびに焦点を当て、グッドデザイン賞・ロングライフデザイン賞の審査委員全99名が選出した85点の受賞デザインを11の領域に分類し、審査委員のメッセージとともに紹介。

21名の東京藝術大学デザイン科3年生が2040年のジェンダーのあり方について考えた課題成果展。Sputniko!と藤崎圭一郎が担当教員となり、ジェンダーギャップ指数が先進国のなかで最下位の日本をデザインで変えたら?をテーマに日本や世界を取り巻く社会の変化や技術進歩に関する観察やリサーチを元に8つのグループがそれぞれのアプローチで17年後の世界を提案。

Upcycling Airplanes JAL Karimoku
2023年9月16日～10月7日
開催場所 / 実施主体:Karimoku Commons Tokyo
https://commons.karimoku.com/news/detail/230905/

役目を終えた航空機を国内で解体し、資源リサイクルを図る取り組みを開始したJALとカリモク家具。建築家の声沢啓治や倉本 仁、イトウケンジなど7組のデザイナーとコラボレーションし、退役した「ボーイング 777型機」の部品を使いカリモク家具が製作した家具に加え、カリモク家具のデザイナーがデザインしたプロダクトも併せて展示。

建築家・内藤 廣 / BuiltとUnbuilt 赤鬼と青鬼の果てしなき戦い
2023年9月16日～12月4日
開催場所 / 実施主体:島根県立石見美術館
https://www.grandtoit.jp/museum/hiroshi_naito_built_unbuilt

日本を代表する建築家であり、島根県芸術文化センター「グラントワ」の設計者である内藤 廣の過去最大規模の個展。『Built（ビルト＝建設された建物）とUnbuilt（アンビルト＝実現しなかった建物）』をテーマとする本展では、初公開資料を多数まじえ、建築としては世に現れていない部分も含めた内藤の設計と思考の軌跡を公開。

イヴ・サンローラン展　時を超えるスタイル
2023年9月20日～12月11日
開催場所 / 実施主体:国立新美術館
https://ysl2023.jp/

イヴ・サンローラン美術館パリの全面協力を得て、「モードの帝王」没後に日本で初めて開催される大回顧展。1958年にディオールのデザイナーとしてデビュー後、自身のブランドを立ち上げ、引退する2002年までの40数年間の変遷を網羅した作品（オートクチュールルック110体、アクセサリー、ドローイング、写真、映像）に資料を含めた262点を12章構成で公開。

野老朝雄　つながるかたち展 O3
2023年9月30日～11月26日
開催場所 / 実施主体:駒場博物館
https://sites.google.com/view/connecting-artifacts/O3

単純なかたちが一定のルールでつながり全体を構成するしくみは、人工物や自然現象を問わず現れる普遍的な原理である。美術家の野老朝雄はこの原理を「個と群」と呼び、多様につながる作品群を生み出している。「個と群」の創造プロセスの実践から派生した学術的研究を起点として「つながるかたち展」は2021年から開催。本展では、国内外から過去最大の40名以上の作家・研究者・開発者が参加し、芸術、科学、産業をまたいだ新しい協働の輪の広がりを紹介。

ガウディとサグラダ・ファミリア展
2023年9月30日～12月3日
開催場所 / 実施主体:東京国立近代美術館
https://www.momtat.go.jp/exhibitions/552

「未完の聖堂」と言われながら、完成の時期が視野に収まってきたサグラダ・ファミリアに焦点を絞り、ガウディの建築思想と造形原理を読み解いていく。「降誕の正面」を飾る彫像を自ら手がけるなど建築・彫刻・工芸を融合する総合芸術志向にも光を当て、100点を超える図面、模型、写真、資料に加え、最新の映像をまじえながら時代を超えて生き続けるガウディ建築の世界に迫る。

Where We Are - ヤマハデザイン研究所 60周年企画展 -
2023年10月21日～11月23日
開催場所 / 実施主体:AXISギャラリー/ヤマハデザイン研究所
https://www.yamaha.com/ja/tech-design/design/events-topics/where-we-are/

ヤマハデザイン研究所の発足60周年を記念して、これまでに発表したなかから、「TurnT（スマートフォンのターンテーブル）」「√ root

美しいデザインに触れることや仲間と一緒に新しいデザインを生み出すことの喜びが、暮らしや社会の進歩にどのように貢献しているか感じられる毎年恒例の企画展。

Syn: 身体感覚の新たな地平
2023年10月6日～11月12日
開催場所 / 実施主体:TOKYO NODE
https://tokyonode.jp/sp/syn/

真鍋大度と石橋喬が主宰するライゾマティクスと、MIKIKO率いるイレブンプレイによる、AI時代に変化する人間の「感覚」を問い直す没入型のライブパフォーマンス。地上45階、天高最高15m、総面積約1500平米ものTOKYO NODEの巨大展示空間の精巧な舞台美術の世界に、体験者自ら足を踏み入れ、それぞれの物語を選択していく本作は、ダンスパフォーマンスでありインスタレーションでもある。

DXP (デジタル・トランスフォーメーション・プラネット) 一次のインターフェースへ
2023年10月7日～2024年3月17日
開催場所 / 実施主体:金沢21世紀美術館
https://www.kanazawa21.jp/data_list.php?g=17&d=1810

地球に住むわれわれの生き方や感性がデジタルテクノロジーによる変容していく様子をアーティスト、建築家、科学者、プログラマーなどが領域横断的に捉え、今おこっていることを理解し、それを感じられるものとして展開するインターフェースを本展示で表現。注目のテクノロジーであるAI、メタバースやビッグデータで構成されるひとつのリアリティ、ヴィジョンとして衣食住も含め総合的なライフの可能性を提案。

須藤玲子: NUNOの布づくり
2023年10月8日～12月10日
開催場所 / 実施主体:丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
https://www.mimoca.org/ja/exhibitions/2023/10/08/2799/

思いがけない素材を使用したり、伝統的な職人技と最新の工業技術を組み合わせたり、いち早くサステナビリティに取り組むなど、従来の概念に捉われないアイデアあふれるテキストスタイルデザイナー 須藤玲子と須藤が率いる「NUNO」の作品を日本各地の職人や協業したテキストイル工場での製造過程の音と映像を交えインスタレーションで観覧。

TAKEO PAPER SHOW 2023 「PACKAGING ―機能と笑い」
2023年10月13日～22日
開催場所 / 実施主体:KANSA SQUARE HALL
https://www.takeopapershow.com/

本展「PACKAGING ―機能と笑い」は、文字通りパッケージという営みを、異なるふたつの視点から見つめ直す試みとなる。「機能」では、古典的な素材でありながら、テクノロジーや印刷加工技術の進展によって大きく変化している紙の近未来に目を向け、「笑い」では、パッケージの魅力に情緒の観点から迫り、両方の観点から「PACKAGING」の可能性を探る。

熊野亘 個展「IN OUT」
2023年10月20日～11月25日
開催場所 / 実施主体:Karimoku Commons Tokyo
https://commons.karimoku.com/news/detail/231004/

熊野亘にとって2回目の個展となる本展のテーマ「IN OUT」は、インテリア/アウトドアを意味する。木工を専門としながら国、素材、インテリアやアウトドアなど異なるコンテクストやマテリアルの境界を行き来し取り組んだ近年のプロダクトが集結。会期中、展示プロダクトとレイアウトはともに更新され、多種多様なプロダクト45点を展示。

倉俣史朗のデザイン ― 記憶のなかの小宇宙
2023年11月18日～2024年1月28日
開催場所 / 実施主体:世田谷美術館
https://www.setagayartmuseum.or.jp/exhibition/special/detail.php?id=sp00216

倉俣史朗の没後30年を経て開催する本展覧会は、家具やインテリアの仕事に加えて、創作の源泉を垣間見せるかのようなイメージスケッチや夢日記も紹介し、「倉俣語録」とも言われた作家自身の言葉を手がかりに、作品とその人物像に新たな視線を向けることでデザインの可能性を再認識する機会となる。

（楽器デザイナーがデザインしたバイク）」「MusicLight（音楽を聴くためのキャンドル）」ミラノ・サローネ2008 出展作品「key for you（進化したデザインの電子鍵盤楽器）」などの選りすぐりのプロトタイプと、ミラノデザインウィーク2023 出展作品を展示。

How is Life?
2022年10月21日～2023年3月19日
開催場所 / 実施主体:TOTO ギャラリー-間
https://jp.toto.com/gallery/ex221021/index.htm

20世紀後半につくられた「生産-消費-廃棄」の想定に基づく構築環境や暮らしの反復から抜け出し、人々の暮らしをよりよくなる建築的営為をはじめめる必要があるとし、本展テーマ「How is Life?」という問いかけを建築展という形にした展覧会。本展では、建築模型や活動写真、現場で使用される道具など多彩な素材が選定者自身による解説文とともに紹介。

人新世のデザイン Exhibition & Talk
2023年10月24日～29日
開催場所 / 実施主体:GOOD DESIGN Marunouch / 公益財団法人日本デザイン振興会
https://www.jidp.or.jp/ja/2023/09/15/jinshinsei2023

34年ぶりとなる世界デザイン会議の日本開催を記念して、「人新世のデザイン」連続トーク&展覧会を開催。デザインが現代の課題にどのように取り組むことができるかに焦点を当て、現在の社会問題に対してデザイナーがどのような役割を果たすことができるのかを探索。多彩なゲストによるトークイベントのほか参加デザイナーの作品やグッドデザイン賞受賞作など併せて23点を紹介。

ドリルデザイン「The Ordinary Material」
2023年10月27日～11月11日
開催場所 / 実施主体:(PLACE) by method
https://placebymethod.com/pages/the-ordinary-material

林 裕輔と安西菓子により2001年に設立され、プロダクトデザインを中心に空間、グラフィック、マテリアルなど、カテゴリーを超えてデザイン・ディレクションを行うデザインスタジオ「DRILL DESIGN」が、繊維、製紙、プラスチックに関連する3つのメーカーと協業し、素材の可能性を探索する実験的な試みをプロダクトアウトした、デザインプロジェクトを紹介。

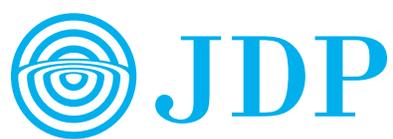
アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで
2023年11月18日～2024年1月21日
開催場所 / 山梨県立美術館
https://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/exhibition/2023/941.html

産業革命によって生まれた機械化による粗悪な量産品や、職人の手仕事を軽視する商業主義を批判し、上質なものづくりや天然素材の価値を見直すことで、日常に根ざした多彩な美術工芸品を生み出したアーツ・アンド・クラフツ運動。同運動を提唱したデザイナー、詩人、社会運動家であるウィリアム・モリスの代表作「いちご泥棒」をはじめ、家具、金属製品、ガラス製品、宝飾品、書物といった160点に及ぶ作品を通じて、モダン・デザインの源流となったアーツ・アンド・クラフツ運動の魅力と広がりを紹介。

倉俣史朗のデザイン ― 記憶のなかの小宇宙
2023年11月18日～2024年1月28日
開催場所 / 実施主体:世田谷美術館
https://www.setagayartmuseum.or.jp/exhibition/special/detail.php?id=sp00216

倉俣史朗の没後30年を経て開催する本展覧会は、家具やインテリアの仕事に加えて、創作の源泉を垣間見せるかのようなイメージスケッチや夢日記も紹介し、「倉俣語録」とも言われた作家自身の言葉を手がかりに、作品とその人物像に新たな視線を向けることでデザインの可能性を再認識する機会となる。

もじ イメージ Graphic 展
2023年11月23日～2024年3月10日
開催場所 / 実施主体:21_21 DESIGN SIGHT/21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一デザイン文化財団
https://www.2121designsight.jp/program/graphic/



公益財団法人日本デザイン振興会
Japan Institute of Design Promotion